

本論文は

# 世界経済評論 2018年7/8月号

(2018年7月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

# デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン販売

## 中国経済の新時代

——成長パターンの転換と日中連携

日本国際問題研究所客員研究員  
現代中国研究家

津上 俊哉



[編著者]

郭 四志 (かく しし)

帝京大学経済学部教授

[発行] 文眞堂, 2017年11月刊

[判型] A5判・ヨコ組・340ページ

[定価] 本体3050円+税

この一、二年、中国経済の進化を実感させられることが増えてきた。スマホのアプリには、日本のはるか先に行く各種のサービスが実装されている等々、中国の経済や技術の躍進ぶりを報ずるメディア記事も増えている。

進化しているのはBtoC型のITサービスだけではない。普段は日本で目にする機会が少ないが、少し調べてみると、科学技術水準の向上、省力化投資の進展、労働集約から資本技術集約への産業構造の転換などミクロ経済の様々な局面において、中国経済が急速に変貌しつつあることを痛感する。

本書は、日本と中国の気鋭の経済学者たちが

中国で進行するこのような変化について、様々な角度からメスを入れて分析した注目の書である。

賃金上昇、質的な充足を求める需要サイドの変化、国民の中での中間所得層の増大、環境制約の高まりなど中国経済を取り巻く様々な外的環境の変化が産業構造、輸出品目の内訳、生産形態などにおけるパターンの転換、グレードアップを促してきた様(さま)がかなり実証的に描き出されていて読ませる。

また、本書後段では、主に日本側研究者が、石油ショック後の産業構造転換のために日本政府が講じた産業政策や日本の高度成長期に中間所得層の成長と彼らによる消費の増大が成長持続に大きな役割を果たした経験、日中の産業の相互補完と連携のあり方などを紹介して本書の論証に奥行きと陰影を与えている。

もちろんいまの中国経済が万事順調という訳ではない。過去2年は低効率な公共投資をやりすぎたせいで地方政府の累積債務問題が深刻化してしまった。本書ではこれら負の側面についてもかなり誠実に焦点を当てている。

目下中国政府が採る経済運営策も、この後遺症抑制のために、不動産投機の抑制、金融政策のきつめ調節、地方政府の債務借入れとPPP投資の整頓など、5年、10年前なら不況入りしておかしくないような引き締め色の強い政策と言ってもよい。それなのに景気はなかなか失速しないのである。そこら辺にもこの5年間で中国の経済構造に新しい要素が加味された効果を感じる。

本書の題名にある「新時代」は習近平主席が昨秋の共産党大会での報告で用いて流行語になった言葉だが、本書はこれに「あやかる」だけでなく、経済面でたしかに中国が「新時代に入った」ことを描くことに成功していると評してよいだろう。

(つがみ としや)